

【実践報告 6】

一校区の生徒の実態を把握した実践を通してー

1 対象集団の状況

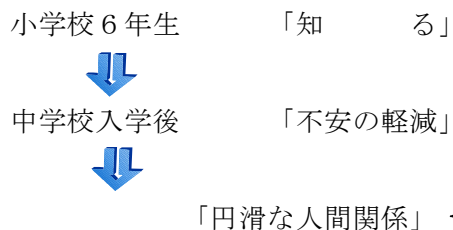
本校は、町内の中学校の生徒数の増加に伴い、昭和61年に分離独立した中学校である。校区は、豊かな緑に囲まれ、旧来から居住する地域と新興住宅地が混在している。開校当時は450名近く、16学級の中規模校であったが、生徒数の減少により現在187名、各学年2学級と特別支援学級を含む7学級の小規模校である。教職員と生徒の関係は家庭的な雰囲気をもっており、ゆったりとした環境の中で学校教育が行われている。

本校は、2つの小学校からの入学状況に特徴がある。一方のA小学校からは全員入学（平成21年度41名、平成22年度57名）し、他方のB小学校からは一部（平成21年度18名、平成22年度15名）が入学してきた。生徒全体の7割がA小学校を卒業して本校に入学してくるが、幼いころからの友達関係が変化する機会が無く、中には、保育園以来ずっと一緒である生徒も多い。それに対して、一部しか入学してこないB小学校を卒業してきた生徒にとっては、大変不安感をもって入学してきている。

2 実践内容

入学してきた生徒たちの多くは、入学する前の不安は友達関係よりも、上級生や学習に対して感じた。そんな中で、ほんの3割に満たない小学校から入学してきた生徒の不安は、友達関係を含めより大きいものがあると思われる。そのため、入学前後で、新しい環境に対する不安を解消する取組を進めることによって、お互いに協力したり心を通わせたりすることができると考え、実践した。

(1) 実践計画



グループ・アプローチを通して、円滑な人間関係を形成できるように支援する。

『安心』・『存在感（学級所属意識）』

	月	週	グループ・アプローチ	効果測定	教育相談	学校行事等
小学6年	9					体育大会へ参加
	1					中学校説明会
中学1年	4	1				入学式
		2				
		3		測定①		授業参観
		4				家庭訪問
		5				

	5	6	文章完成法（H21） 先生ばかりが住んでいる マンション（H22）			1年校外学習 （H21） 1年遠足（H22）
		7				引き渡し訓練
		8				
	6	9			教育相談週間	
		10			教育相談週間	
		11			教育相談週間	
		12			教育相談週間	期末テスト
	7	13				
		14	班対抗クイズ（H21） なぞの宝島（H22）			
		15		測定②		

(2) 活動1 学校行事への参加「体育大会」（9月）

中学校の行事を観戦・参加することによって、中学校や中学生を身近に感じることができると考え、毎年9月の体育大会にA小学校の児童を招いている。

ア 活動の内容

体育大会の種目「大縄跳び」に小学生として参加したり、中学生が演じるパフォーマンスの演技を観戦したりしている。

イ 参加者の様子

A小学校6年生が、午後から応援合戦（クラスパフォーマンス）の演技を見たり、大縄跳びで競技に楽しそうに参加したりした。また、綱引きで1位になった3年のチームが、PTAチームと競技をする様子を見て楽しんでいた。



【小学生の大縄跳び】

【体育大会に参加した児童の感想】

中学校の体育大会を見て、最初に思ったことは、中学生の先輩はとても明るく元気だったことです。ぼくは、中学校は少し暗いイメージだと思ったので、それを見てビックリしました。中学生のパフォーマンスは、どれも息が合っていてすごいと思いました。

【A小学校 参加児童の感想】

中学校の体育大会へ行って思ったことは、中学生はデカイということでした。小6と中学生の身長の違いがこんなにあるとは思いませんでした。クラスの中でも、結構大きい人はいるのに、特に中3の男子と並ぶと小さく見えてしまいます。私たちも、中学生になったら、あんな風になるんだと思うと変な感じです。

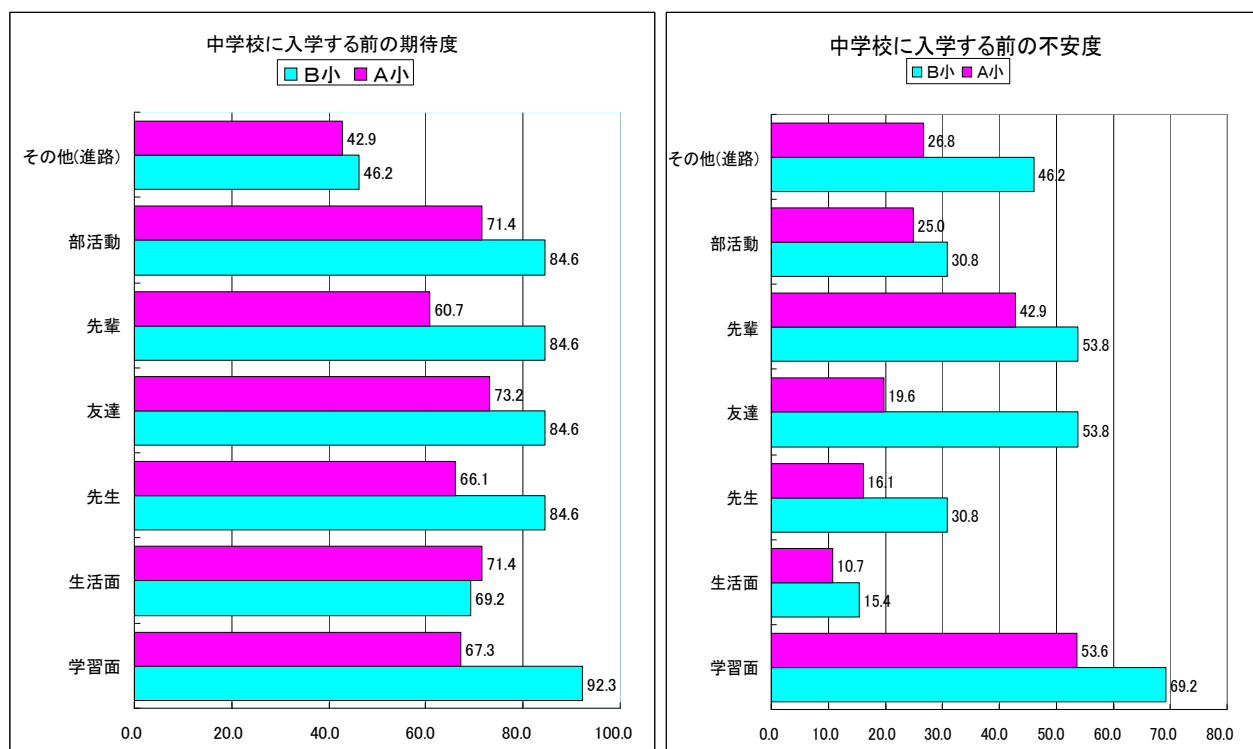
【A小学校 参加児童の感想】

ウ 課題

この実践は、小学生の児童が中学校を知るきっかけとなり、中学校入学への不安がすごく減少するようだ。しかし、今回中学校に来校した児童は、次年度入学する予定の児童全員ではない。4月の入学当初、生徒に期待度・不安度の調査をしたところ、二つの小学校から入学してきた生徒の期待度には大きな差はないものの、不安度は少人数しか入学してこないB小学校から入学した生徒が多くなっている。そこで、一部しか入学してこないB小学校の児童に対しての対策が必要であり、追跡の調査

を試してみた。

【期待・不安について小学校の比較】



(3) 活動2 「小学校6年生向け中学校説明会」(1月)

中学校に入学して学校不適応をおこさないためにも、6年生の児童が中学校の様子を自分の目で確かめ、中学生になるための心構えをもたせることを目的として、二つの小学校の児童を中学校に招いている。

ア 活動の内容

授業や施設を見学した後、中学校の教師より、授業や部活動などについて説明をした。また、生徒会役員が中心となって、校則などについて説明をした。

イ 参加者の様子

A小学校の児童は、毎年体育大会の時に見学に来て競技と一緒にやったり、観戦したりしていたが、中学校について話を聞く入学説明会は今回が初めてである。両小学校の児童ともに聞く態度が良かったのが印象的であった。また、各小学校の代表児童あいさつは、中学校の教師が驚くほど上手く、中学校入学への期待の大きさを感じさせた。

事前に質問・見学希望等を聞いて、中学1年生が「本校のよさ」を紹介する掲示物を会場に飾り、場の雰囲気盛り上げ、心のこもった有意義な時間となった。



【児童向けの説明会の様子】

【中学校説明会に参加した児童の感想】

私は、4月から行く中学校をすごく楽しみにしています。でも、新しい環境で生活するのに、少し不安も感じていました。今回、実際に中学校に行って、先輩たちの授業を見学させてもら

ったり、先生に中学を案内していただいたり、先生たちが質問に答えてくださったりしたお陰で、大分気持ちが楽になりました。まず、私が一番驚いたことは、運動場の広さと校舎の高さでした。「やっぱり小学校とは違うな」と思いました。そして中に入ると、先輩たちが描いたポスターがたくさん貼ってあって、すごく楽しそうな校舎でした。体育館も大きくて、さらに2階にもあったので驚きました。そして、一番楽しみにしていた先輩たちの授業を見学して思ったことは、どのクラスもまとまっていて、いい雰囲気だなあと感じました。「私も中学校に入ったら、いろんなことを一生懸命がんばるぞ!!」と、一層中学入学が楽しみになりました。

【A小学校 参加児童の感想】

私は最初、中学校はあまり楽しみではありませんでした。理由は、すごく仲がいい友達と別れてしまうことや不安がたくさんあったからです。けれど、中学校に行って説明を聞いているうちに、中学校に行くのが楽しみになりました。先生は優しく、先輩たちの授業を見たら授業も楽しみになりました。体育館が2階建てだったこともびっくりしました。私もはやく中学校へ行きたいと思いました。

【B小学校 参加児童の感想】



【1年生徒からのメッセージカード】

もうすぐ入る諸小生へ。中学生活がもうすぐ始まりますね。部活に悩む人も少なくはないでしょう。しかし、仮入部をうまく使って、自分に一番合う部活を選ぶのもいいと思います。僕の入っているテニス部は入ったばかりのころは筋トレばかりでしたが、やり終えればボールを打たせてもらえます。他の部は知りませんが、自分に合う部活が一つもないなんてことはほとんどないので、安心して選んでください。4月までお元気で。

【1年生徒 A小学校卒業生】

中学校は生徒の人数がとても少ないけど、みんな仲が良くて、とても楽しい学校です。もし、他の小学校の子と仲良くなれるか心配している人は、気にしなくても大丈夫です。私もB小から来て、A小の子と仲良くなれるか心配だったけど、自分からいろいろ話しかけると、笑顔で答えてくれて友達がたくさんできました。そういうところも中学校のいいところです。ぜひ、中学校生活も楽しんでください!!

【2年生徒 B小学校卒業生】

ウ 課題

入学前に中学校を知る機会は大変有意義であった。自宅から中学校までの通学距離や通学時間を知ることができた。また、中学校の在校生にとっても、間もなく入学してくる下級生の様子を知ることができた。しかし、時間的なゆとりがなく、校舎内を一通り見学しただけになってしまい、ゆっくりと校庭等を廻る時間があると良かった。

(4) 活動3 グループ・アプローチの実践

ア 現職教育

平成21年7月6日実施 「なぞの宝島」

平成22年5月24日実施 「匠の里」

本校の1年生において、グループ・アプローチを通じた研究がされていることが、本校の職員にも浸透してないことを感じていた。そこで、現職教育として、愛知県総合教育センターから講師を招き、職員が生徒になってグループ・アプローチに参加し、研修を積んだ。

グループ・アプローチやグループワークという言葉聞いたことはありましたが、実際に実践したり、自分自身が体験したりしたことはありませんでした。今回、実際に体験してみても、和気あいあいと楽しい雰囲気でき、抵抗感がなくなりました。また、クイズの答えにたどり着いたことから充実感を感じました。

【参加した教師】

イ 定期的な実践

平成21年度の実践を反省し、平成22年度は、1年生の学級活動の教育課程の中に2時間のグループ・アプローチの実施を位置付けた。

(ア) 文章完成法（平成21年5月実施） 一連想法を使ったエクササイズ

① ねらい

- ・ ふだんの自分を振り返り、感じていること、考えていることなどを明確にし、できた文を紹介し合うことで、他者理解を推進させる。

② 活動の内容

- ・ 各学級で学級担任がファシリテーターとなり、実施する。
- ・ 事前に時間を確保し、「わたしは…」等の10個の文章を完成する。
- ・ 生活グループの中で、お互いに発表し、感想を伝え合う。
- ・ グループごとにシェアリングをする。
- ・ 全体に感想を発表する。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ 友達の意外な一面を見ることができた。知らないところを知ることができた。
- ・ みんな一人一人考えていることが違うことが分かった。
- ・ 書いた文を聞くことによって、その人のことについて分かった。
- ・ 自分のことを正直に多く書いたことは久しぶりだ。
- ・ 違う小学校の子のことがよく分かった。
- ・ 自分がどういう人なのかなどがよく分かった。
- ・ 自分のことをかくさずに、言えるようになりたい。
- ・ 班の子と仲が深まった気がする。

【教師の感想】

- ・ 今回の題材は、文章を書く時間をしっかり取り、それをもとに発表させた。自分についてよく考える時間をとったことで、友達の個性などいろいろな違いが分かったようである。また、友達により興味をもてたのではないかなと思う。

④ 課題

文章を書くことに対して、生徒の能力差が大きく、かなりの時間を必要としてしまった。また、グループを近くにいる生徒同士で実施したため、グループの中に積極的に話し合い活動に参加し、まとめることができる生徒がいるグループは活発に活動していた。しかし、消極的な生徒ばかりのグループは十分な活動ができなかった。グループの決定の仕方に課題が残った。一方、入学後間もない時期の実施であったため、グループ・アプローチの内容を別のものにした方がよかった。

(イ) 「先生ばかりが住んでいるマンション」(平成22年5月実施)

① ねらい

- ・ 自分もっている情報を正確に伝え、正しく聴くことの重要性に気付く。
- ・ 情報を集めてまとめるときに、協力の大切さについて学ぶ。

② 活動の内容

- ・ 各学級で学級担任や学年主任がファシリテーターとなり、実施する。
- ・ グループを作り、情報カードを使い協力して課題を解決する。
- ・ グループごとにシェアリングをする。
- ・ 全体に感想を発表する。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ 結構時間がかかったが、みんなで協力したら意外にできた。
- ・ グループ全員が参加して、協力して一人一人がもっている意見を言うことができ、楽しくできた。
- ・ みんなで協力して話し合えないとできなかった。自分の意見を出しつつ、他の人の意見を聞くことが大切だと思う。
- ・ 話をするときにあまりみんなで団結できなかった。



【ファシリテーター役の教師】

【教師の感想】

グループ・アプローチ第1回目。ゲーム感覚で行うことができるので、興味を示す生徒が多かった。初めはやり方に戸惑っていたものの、ほとんどのグループがルールを守り意見を出し合いながら行うことができた。時間が経つにつれて、グループを引っ張る生徒が出てきたり、用紙に記録する生徒が出てきたりした。ほとんどのグループが時間内に正解を導き出すことができた。

(ウ) 班対抗クイズ法(平成21年7月実施)

① ねらい

- ・ 互いに協力する体験を通して、仲間づくりをする。

② 活動の内容

- ・ 各学級で学級担任や学年主任がファシリテーターとなり、実施する。
- ・ 20問のクイズに自分の思った答えを書く。
- ・ グループを作り、お互いに発表し合う。
- ・ グループごとにシェアリングをする。
- ・ 全体に感想を発表する。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ 楽しかった。
- ・ なぞなぞがくだらなかったけれど、おもしろかった。
- ・ この班は楽しくできて、しかも1位だったので、最高でした。また、この班でしたいな。

- ・ 私が思いつかない答えを友達が出していたので、びっくりした。
- ・ 意外と分からず、苦戦したがおもしろかった。
- ・ 自分一人では分からなかったけど、班で考えると、いろいろな答えがあることが分かりおもしろかった。

【教師の感想】

- ・ 班の中で積極的に話し合う場面が多く見られて大変良かった。
- ・ 最初、「なぞなぞ」自体をつまらないと片づけてしまう生徒がいて、いやな雰囲気になってしまった。楽しい雰囲気で導入の仕方を工夫する必要がある。

④ 課題

クイズということで、大変楽しく取り組んだ生徒が多くいた。しかし、前回と同様にグループの組み方によって盛り上がりには差が出てしまうため、普段の生活の様子から、効果の上がるグループを工夫する必要がある。

(エ)「なぞの宝島」(平成22年7月実施)

① ねらい

- ・ 互いに協力する体験を通して、仲間づくりをする。

② 活動の内容

- ・ 各学級で学級担任や学年主任がファシリテーターとなり、実施する。
- ・ グループを作り、情報カードを使い協力して課題を解決する。
- ・ グループごとにシェアリングをする。
- ・ 全体に感想を発表する。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ もっとみんなに分かりやすく情報を言えるとよかった。
- ・ 前回よりすごく難しかった。
- ・ よく考えないと全然進まなかった。
- ・ 一つ違うと全部違ってくるので難しかった。



【教師の感想】

【なぞの宝島】

前回とやり方が同じなので、どのグループもスムーズに取りかかることができた。しかし、内容が難しく、生徒同士うまく指示が伝わらないことが多かったため、途中であきらめてしまうグループや、カードを全部並べて正解を探そうとしているグループがあった。一つ一つグループをまわり、悩んでいるグループや協力できないグループには、ヒントを与えたり、どのように進めるとよいかを教えた。しかし、時間内に正解を導き出すことができたグループはなかった。前回の振り返りで「しっかり伝えることが大事だと思った」「次にやる時は人の意見を聞きたい」などの感想が出たものの、今回にうまくつなげられた生徒は少ないように感じる。

ウ ショートエクササイズ (5月～随時実施)

① ねらい

- ・ 朝の会や帰りの会を利用して、学級や学年で互いに協力する体験を通して、仲間づく

りをする。

② ショートエクササイズの内容

・誕生日チェーン

学年全員が体育館に集まり、指だけを使って自分の誕生月を表し、1月から順番に並んだ。

・ジェスチャーゲーム

学年全員が体育館に集まり、7～8人でグループを作り、「昔の遊び」について交代にジェスチャーをして、その名前をみんなで当てる。

③ 参加者の様子

【生徒の感想】

- ・ チームが一つになってジェスチャーをしたときは、みんなで協力することはいいことだと思った。
- ・ 今日のゲームでみんなの仲が深まった。楽しかったので、機会があればまたやりたい。
- ・ 誕生日チェーンやジェスチャーゲームをやって、みんなで力を合わせないと全てのことができないとわかった。
- ・ 誕生日チェーンでは70人もいたけど、ほとんどの人が「しゃべらない」の約束を守ってできたので良かった。ジェスチャーゲームは、相手に大きく分かりやすく表現しなければいけないと思った。

④ 課題

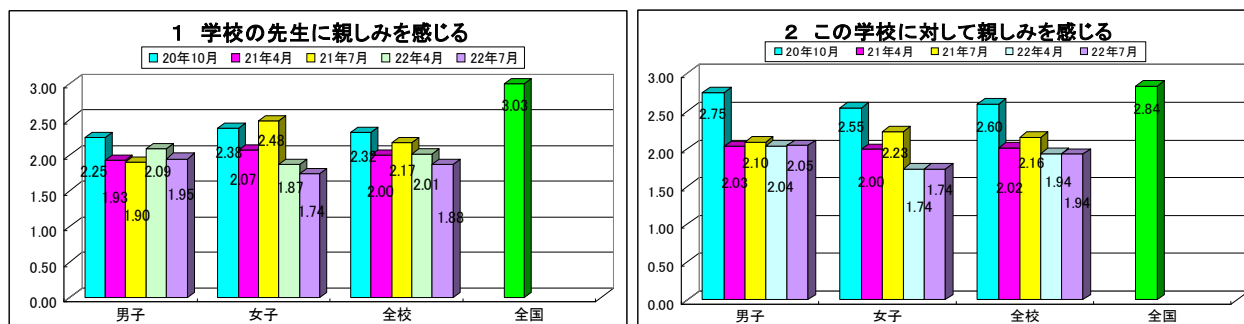
学級や学年単位で、朝や帰りの短学活を活用して、グループ・アプローチを実施することは、大変効果があることが分かった。しかし、時間的にいつも余裕があるわけではない。年間通して、行事等の前に計画的に実施していくことが大切である。

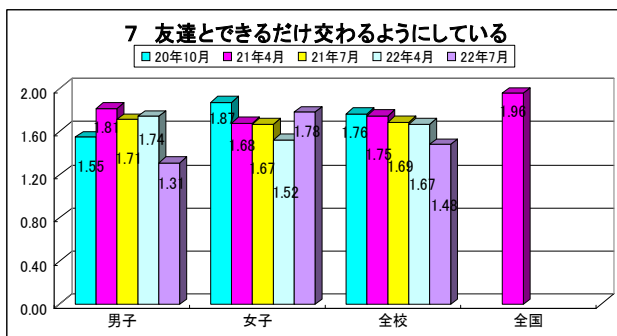
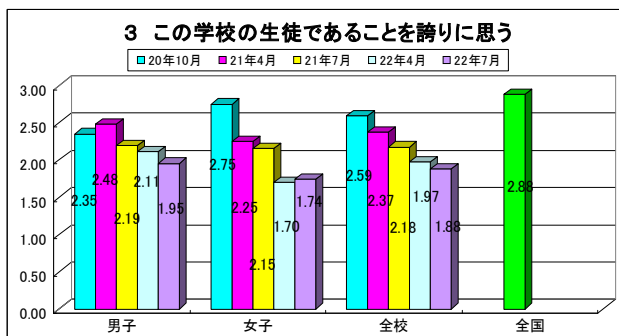
3 結果と考察

(1) 適応度調査の結果より

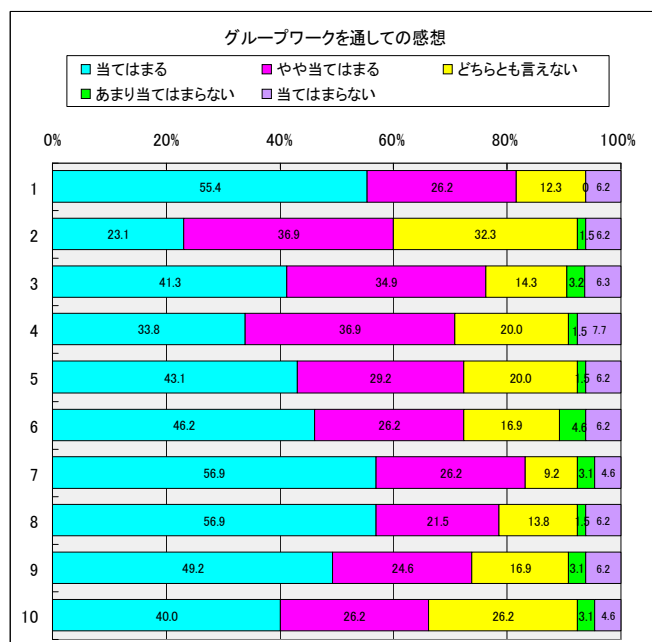
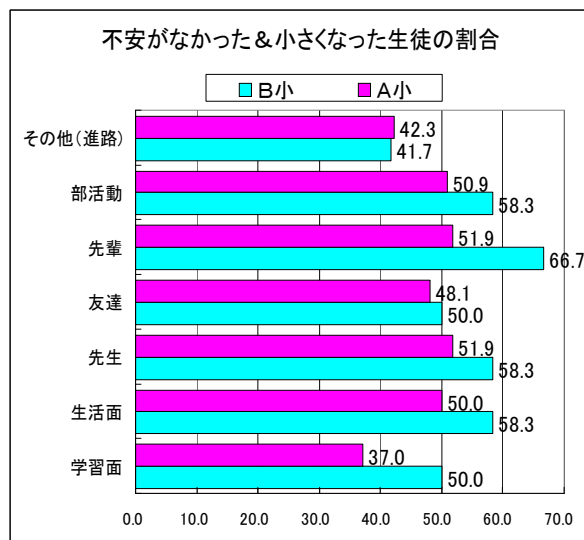
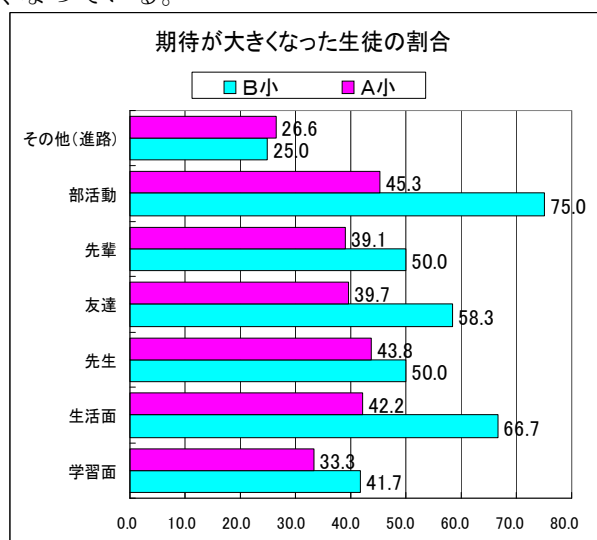
3年間の研究を通して、グループ・アプローチの実践を行った結果、「この学校に対して親しを感じる」「この学校の生徒であることを誇りに思う」という項目において、特に高い値を示し、特に毎年男女を問わず「親しを感じる」割合が大変高くなっている。中学校区の特性もあると思われるが、グループ・アプローチを通して、友だち関係がよい方向に改善してきていると考えられる。また、「自分から友達とできるだけ交わるようにしている」という値が高くなっていることから、自分から積極的にかかわろうとする気持ちが育っていることが分かる。

【適応度調査結果】





B小学校から入学した生徒が入学当初持っていた不安は、多くの項目において減少し、期待が大きくなっている。



- 1 みんなでやると楽しかった
- 2 自分のよさや、自分のことについて分かってきた
- 3 友達のよさや、友達のことについて分かってきた
- 4 自分の気持ちが分かってもらえてうれしかった
- 5 友達の気持ちを、思いやるようになってきた
- 6 自分の意見が、言えるようになってきた
- 7 協力することや、団結することが大切だと分かった
- 8 お互いの意見を、ちゃんと聞き合うことが大切だと分かった
- 9 みんなと仲良くできるようになったと思う
- 10 クラスのふんいきがよくなったと思う

グループ・アプローチを行うことによって、「みんなと仲良くできるようになった」「みんなとやると楽しかった」と感じている生徒が多い。特に、自分の意見が言えたことを自信と感じたり、友達の意見を聞くことの大切さを感じたりしていることが分かった。グループ・アプローチを実施した生徒たちは、その成果の大きさを実感している。

(2) 生徒の変容（B小学校出身の生徒）

【抽出生徒 A…明るく活発な生徒】

自己主張がやや強い傾向にあるため、仲間の中で孤立しやすい面をもっている。学校生活が進むにつれて、リーダー的な素質が発揮され、後期の級長として活躍している。文章完成法のグループ・アプローチの振り返りの中で、「1つの文章をどのように解釈するかは、別々なんだったと思った。だから、私も自分の言った言葉が誤解されているかもしれないと心配です。言葉を慎重に選び誤解されないようにしたい」と述べている。小学校以来変わらない友達関係の生徒が多いが、グループ・アプローチを通して自分自身を振り返り、同時に友達関係を見つめ直すきっかけになったようである。

【抽出生徒 C…友達が少なく、からかわれやすい存在である】

授業中は、ぼんやりしていることが多く、教科担任の教師からよく注意を受ける。また、友達からの印象もよくない生徒である。1回目のグループ・アプローチの振り返りでは、自分自身の気持ちを少し出すことができなかったと自己評価し、感想等も白紙であった。2回目のグループ・アプローチでは、クイズのすべての項目にきちんと回答し、友達の良いところについても少し書けていた。10月には、友達から嫌がらせを受けているという保護者からの訴えがあったが、その指導後には友達関係が改善され、仲のよい友達が少しずつ増えてきている。

(3) 考察

入学してから間もなくは、同じ小学校の生徒同士が集まって放課を過ごす場面が多く見かけられたが、グループ・アプローチや学校行事を通して、どの小学校を卒業しているかなどということを全く感じさせない友達関係ができてきた。A小学校卒業の生徒は、幼稚園の頃から変わらない友達関係を作っているため、幼い頃のイメージをお互いがもち続けている。しかし、成長に伴って考え方が変化していることをお互いが気付いていない傾向がある。特に、幼い頃から仲のよい友達に恵まれず、辛い思いをしている生徒にとっては、中学校入学は新しい友達を見つけたり、改善したりするチャンスである。

平成22年度は、例年以上にB小学校出身の生徒が少なく、特に女子生徒は3名しかいなかった。そのため、行事の精選に伴い、昨年まで探究的課題をもち取り組んでいた校外学習を仲間づくりを第1の目標とした遠足に変更した。中学校に入学して間もなくグループで楽しい体験をしたことや計画的にグループ・アプローチを実施したりすることによって、少人数で入学してきた生徒にとっては、特に有効な試みであった。幼い頃から人間関係が変わらないA小学校の生徒にとっても、自ら進んで友達をつくろうと努力したり、改めて友達を理解したりするきっかけになったようである。

4 今後の課題

本研究では、少人数の小学校から入学する3割の生徒の不安に焦点を当て全体の調査を行ってきた。本校では、グループ・アプローチを実施する時間を、1年生の学級活動の年間計画の中に位置付けて実践した。しかし、授業時間数の増加等を考えても、より多くの実施をしていくことは難しい。そのため、様々な学習活動の場面でショートエクササイズを取り入れたり、道徳や学級活動等の年間計画の内容をさらに見直したりすることから始める必要がある。また、教師はグループ・アプローチの手法を学ぶことにより、授業だけでなく日ごろの話や指導の場で、生徒の心をつかんだり生徒同士の関係づくりを行ったりすることができるようにしていきたい。教師の意識が高まり他学年でも、朝の会にショートエクササイズを取り入れたり、行事前にグループ・アプローチを実施したりして、生徒同士の関係づくりを深めている。

本校には、不適応症状から不登校になっている生徒は、幸いにもここ数年いない。今後も、一層小中の連携を深めたり、校区の特徴を生かして、中学校の教師が小学校へ出前授業に出かけたりすることも計画できるとよい。

小規模校だからこそ、生徒の縦や横のつながりがしやすい。先輩との関係も密で、先輩の頑張る姿は、下級生の目標となり、中学校生活の希望へとつながっている。生徒の人間関係を日ごろから良好に保っていくことで、これからも生徒の学校への適応を図っていきたいと考える。

参考資料

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 『改訂 グループワーク・トレーニング』 | (遊戯社) |
| 『協力すれば何かが変わる』〈続・学校グループワーク・トレーニング〉 | (遊戯社) |
| 『「グループワーク・トレーニング3」〈友だちっていいな 自分っていいな〉 | (遊戯社) |